

---

## 第4章 今後の課題

今後は、この指針に沿った着実な保存管理を進めることが大事である。ただし、画一的な保存管理をしていくのではなく、状況の変化に応じた順応的な管理をしていく必要があることから、概ね5年ごとに現状の把握と対策の進捗や効果について検証し、必要に応じて指針を見直すものとする。

今後の課題は、次のとおりである。引き続きこれらの課題を解決すべく必要な作業を進めていく。

### (1) 桜並木の維持更新

新たな桜の植樹面積の確保や既存木の樹勢回復は行うものの、老齢木が多い状況では、高水敷等原則補植が困難な箇所は次第に失われていくことになる。治水上の弊害を踏まえた上で、こうした箇所の桜並木の存続について検討が必要である。

### (2) 宮川堤の活用

宮川堤の桜並木を保護・保存することはもちろんであるが、宮川堤に係る歴史資産の普及活用を推進することも今後の課題となる。歴史資産の保護の推進には、地元中島学区まちづくり協議会や宮川堤周辺に住む人々の理解と協力が不可欠である。各関係機関による環境整備を充実させながら、民間による歴史資産普及活動の盛り上がりにも期待する。

### (3) 管理体制の確立

今後、伊勢市（教育委員会）が名勝管理者として桜の維持管理に主体的に取り組み、名勝管理協力者の宮川保勝会の再構築についても地域等と協議するとしているが、桜以外の樹木や他の構成要素の維持管理における関係部署の役割分担の明確化、緊急時等の連絡体制の強化、実務者レベル会議の実施、愛護活動を通じた人材の育成等、包括的な管理体制を確立することが必要である。